

# 「人づくり」の まち・岡崎



教育随想

岡崎市教育委員会委員

平野 有行 氏

今夏も岡崎市立大学に参加する機会を得た。私が聴講した講演は、ほぼ満席状況であった。著名人の来園だからであろうが、猛暑の中、会場に集う市民の多さに、他市では見られない岡崎らしさを感じる。「あの人の話を聞きたい」「何かを参考にしたい」という気持ちの強さが足を動かしていると思われる。一事象に過ぎないが、このような前向きな市民性に岡崎の教育が支えられてきた気がする。

子供たちを育てるには、人的環境が極めて大切である。「教育は人なり」と言われるように、岡崎の学校教育は、子供たちに軸足を置いた勤勉な教師たちによって推進されている。

岡崎の教師たちのよさは、「割り切り」「育てなくては」という強い信念で子供たちに接していることである。「人

づくり」は、手間隙がかかるものだが、教師の思惑通りに事が運ぶとは限らない。教師のプラスアルファの動きがあつてこそ、子供は育つものである。この教育情熱は、教師個々の生き方如何によるものだが、職場での教育活動の中で培われることが多い。それは、教師相互が切磋琢磨しながら職場の良好な教育環境づくりに努めてきたお陰である。改めて岡崎の伝統に敬意を表したい。

教師たちの情熱ある教育活動を周囲がどのように支えるかも、よい環境づくりに大切なポイントである。「当たり前」という感覚ではなく、市民の心温まる受け止め方は、相互の信頼関係を深める。そのうえ、教師集団による「人づくり」を加速させるエネルギーに転化するものである。

長年に渡って培われてきた、子供への教育に対する教師の姿勢や、保護



者・地域との理解・協力関係が岡崎の教育風土を形成している。この有様は、公教育の原点であり、このような教育の維持・発展が今問われなくてはならない。

「人づくり」のまち・岡崎」これほど未来への貴重な財産はない。

(ひらの ありゆき)



平成19年12月1日

12月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	■
岡崎市教育委員会委員 平野 有行氏	
この人に聞く	■
東海ラジオ放送アナウンサー 川島 葵氏	
羅針盤	■
本宿小学校長 太田 修司	
ふれあい	■
竜海 中 佐渡 英彰	
特集	■
出前講座～行政との協働～	
お知らせ	■
フォト・ヒストリー	■
薄着・裸運動(昭和47年)	
この本を	■

ふるさとシリーズ

## この人に聞く



## 夢の途中

東海ラジオ放送アナウンサー

川島 葵 氏

ラジオのアナウンサーになって三年目。現在、「川島葵のココロサブリ」など、週に三本の番組を抱える毎日。インタビューのこの日も、生放送の仕事を終えて、名古屋から駆けつけてくださった。

「いい人に囲まれて育った岡崎が大好きなんです。会社でも、西三河代表で頑張っているんですよ。」

笑いながら話す川島さん。岡崎市内の自宅から電車を利用しての通勤も、街の風景やにおいを感じたり、人々の服装や流行をつかんだりするための時間になっているそう。

岡崎で生まれ、両親と二人の姉に囲まれて、のびのびと育った。



「テレビの画面に映るキャスターやアナウンサーの生き生きとした姿を見ては、子供心にあこがれました。そして、ダンボールをテレビに見立てて、まねをするわたしを、家族は温かく受け止めてくれました。」

光ヶ丘女子高校へ進み、放送部で活躍した高校時代。そこで出会った先生から強い影響を受け、全国的な放送コンクールで上位入賞を果たした。それがきっかけで、アナウンサーの道を目指した。その後、上智大学へと進み、現在に至っている。

「高校時代は、クラスのどの子にも必ず声をかけることを一日の目標にして、頑張っていました。そのおかげで『葵ちゃんがいなくて助かったよ』と言われたこともあります。」

人と人との橋渡しをする現在の姿につながるようなエピソードも紹介してください。

「初仕事のときは、とても緊張しました。仕事を終えて、これまで自分を支えてくださった恩師やスタッフなど、多くの方々への感謝の気持ちで胸

がいっぱいになり、会社の屋上で一人で泣いていました。」

当時は懐かしそうに振り返る川島さん。

「ラジオの仕事の難しさは、目に見えないものを、不特定多数のリスナーを相手にして、どのように伝えるかという点にあります。逆に言えば、言葉の運び方や声のトーンで想像力豊かに伝えられることに、大きなやりがいを感じています。」

最近では、時間を見つけては、美術館に足を運んだり、美術の勉強を進めたりしている。いつの日か、番組内で、目の前の絵画や建築物の美しさを、より豊かにリスナーに伝えたいという思いからだそう。

「その言葉で絵がぱっと浮かび上がるような、声に色のあるアナウンサーを目指しています。また、スポットライトを浴びていない人に密着し、生き生きと紹介するドキュメンタリー番組の制作にも挑戦したいです。その意味では、まだ夢の途中です。好奇心があつて、これなら自分でもできると思えることが一つあれば、将来、道は開けるといふことを、若い人たちに伝えたいです。」

夢多き川島さんがマイクを前に語る姿を思い浮かべながら、番組にじっくりと耳を傾けてみたくなった。

氏名 かわしま あおい  
生年月日 昭和五十七年九月十六日  
住所 岡崎市緑丘一丁目

## 羅針盤



## 自信をつける教育

本宿小学校長 太田 修司

「好きこそ物の上手」という言葉があります。四年生のA君はトカゲに大変興味があり、家で飼っています。そのA君が私にトカゲを見せ、トカゲの様子や飼い方を楽しそうに話してくれます。A君から話を聞く中で、「トカゲは日本の足をどのように動かして歩くの」と意地悪く尋ねてみました。すると、A君は四つんばいになって、正確に歩いて見せてくれたのです。さすがトカゲ博士です。

子供が好きなことや興味を示したことを大切にすることが、学校教育のまさに原点です。子供自身は好きなことなら時を忘れ、熱中して対象物に興味を集中し、いろいろなことを見つけ出します。そのようなときは、子供は何の苦痛も負担も感じないでしょう。いくらでも頭や体に吸収されるのです。

# ふれあい

## 人間力

竜海中 佐渡 英彰

二十四対十七。東海大会準決勝のマツチポイント。あと一点とれば念願の全国大会出場が決まる。周りから「あと一点!」の声が聞こえてくる。しかし、私は、必死に大声で叫んでいた。

「まだっ、まだまだぞ。まだまだ。」  
全国大会出場に向けて一番の強敵は、自分たちであった。いつも彼らは自分自身と闘ってきたような気がする。

今年のチームは決して身体的に恵まれた生徒たちではない。だから一生懸命レシーブをし、速いテンポで攻撃をしかけるコンビバレーで勝つしかない。粘り強くミスのないバレーボールを続けなければならぬ。それには、技術だけではない「人間力」が必要であった。

ところが、この「人間力」が難しい。苦しい気持ちがすぐ顔の表情や

態度に出る。それがチームの仲間に対して表れる。いろんな形で心の弱さが出る。結果的にバレーの技術や勝ち負けも不安定になる。

「何度も言ったじゃないか。どうしてやらん。」

「スポーツマンらしくやれよ。」

「態度が大切だろう。なんで一生懸命やらないんだ。」

「やる気がないなら、もう終われ。」

「勝ちたいんじゃないのか。じゃあ、今苦しめよ。」

この二年半、こんなやりとりの毎日だったような気がする。素直に謝れなくて一か月近くコートに戻れなかった子。「もうやめます」と体育館をあとにした子。注意される度に涙をためた子。心身共にベストのチーム状態で練習や試合に臨むことがほとんどなかった。



東海新人戦で準優勝しても、五月の総合体育大会で優勝しても、気持ちの中では釈然としない不安が広がっていた。結果は残しているものの勝ったという気がしなかった。自分たちのバレーがやりきれていない。相手に勝たせてもらっている。

「これで、本当に全国へ行けるのだろうか。」

勝たせてやりたい。全国に行かせてやりたい。何を言ってもやればいいのか。何を教えればいいのか。自問自答の日々が続いた。でも答えなどなかった。結局はこの言葉に頼った。

「二球一球を大切にしよう。次のプレーに集中しよう。後悔をしたくないんだ。君たちも同じだろう。」

勝負の夏が来た。少しずつ子供たちが変わった。プレー中にお互いが声をかける回数が増えた。どんなボールでもあきらめずに食らいつづいた。集中力を長く保つことができた。それができた全国大会への切符。

全国大会では、しっかりと自分たちのコンビバレーで勝ち進み、ベスト8という結果を残すことができた。八月二十三日、二年半に渡る格闘が終わった。全国大会のコートが、子供の「人間力」はもとより自分自身の「人間力」を磨いていたことを教えてくれた。

子供の好きなことや興味関心を示したことを見つけ出し、引き出し、認めていくのが教師の大切な役割です。子供は教師にほめられるのが一番です。他の子よりも知っていることが多くあったり、できたりすることが、その子の得意となります。したがって、トカゲのことはA君に聞こうとなるわけです。A君はトカゲについて、まだ知らないことを答えられるようにしようと、ますます学習や観察・調査などの活動を進めます。そして、トカゲから他の動物や他の理学的な分野へと視点も広がりをさせるものです。

このように人から一目を置かれ、期待されることで、やる気はさらに増幅するものです。子供が自分の得意なことを伸ばし、得意分野を持つことは、その子供の自信や生活の張りになります。好きなことが得意となり、ついには暮らしや職業に結びついていくことにもなります。

教師は子供に自信をもたせ、得意なことを伸ばすことを求められます。一人一人の子供は宝石の原石です。どの子も輝く子ばかりです。教師は皆、子供や保護者、地域の方々からの学校教育への期待に情熱をもって応えていかねばなりません。

# 出前講座



## ～行政との協働～

▲市職員による矢作川流域の出土品の説明を聞く生徒（矢作北中）

「生涯学習市職員出前講座」は、平成十五年より始まった。これは、市職員が地域に向き、専門的な知識、技術を提供することで、生涯学習の機会を拡充し、市政に対する理解と協力を求めることを目的としている。

一方、市内の小・中学校では、身近な岡崎の環境や歴史、福祉などについて学習する機会が増えてきた。

鳥川小、大瀬河小、千万町小では、三校合同で、学校周辺の川の調査を行い、自分たちのふるさとを見直す取組が行われている。このような学校の実状を踏まえ、市の環境部では、小・中学生を対象に、「環境教室」を実施している。今年度は「エコマンダラーの時間」が新設され、より子供たちの実態に合わせた学習内容で、参加人数は増加している。

矢作北中では、平成十八年度の一年生が、「わがまち岡崎」というテーマで、総合的な学習の時間に取り組んだ。一学期に個人追究テーマを設定し、二学期には、市職員出前講座を利用し、十講座を開設、自分のテーマに関係した講座を受講し、追究をより深めることができた。

文献やインターネットで調べれば、一般的なことは分かる。しかし、「人」から学ぶことは、より具体的で、専門的な知識、技術に触れることになり、子供たちにとって、価値ある学びになる。

行政との協働である出前講座。この活用は、子供たちの自ら学ぶ意欲を高め、社会を生き抜くための力を育むことになるであろう。

### 郷土を考える

調べていくうちに、自分たちの知らない岡崎の歴史と文化がまだまだあることがわかった。今日の講座で直接話が聞けたり、質問できたりして自分の追究がより深いものになってきた。そして、新しい課題も見つかった気がした。

（矢作北中 一年）

	講座名	担当の課(実施当時)
1	中心市街地活性化について	企画政策部企画調整課
2	まちづくりについて	都市整備部都市計画課
3	総合計画の概要	企画政策部企画課
4	河川の水質と生息する生物	環境部自然共生課
5	資源のリサイクルとゴミの減量	環境部ごみ対策課
6	高齢者福祉サービスについて	福祉保健部長寿課
7	岡崎の観光	経済福祉部観光課
8	ジャズコレクションってなあに？	シビックセンター
9	岡崎城	教育委員会生涯学習課
10	矢作川流域の歴史と文化	美術博物館

▲矢作北中校内出前講座（市職員出前講座を利用）

### 環境を守る



▲地球温暖化についてのすごろくで学ぶ子供たち（根石小4年）  
（環境保全課）

油を流すと川はでうなる  
お母さん、ぼくが生まれたとき  
から、食品を使うのをためて、油を  
処理するようになった。  
なびかごとをうって、ぼくがまちが  
て、食品を食べてしまつたから、  
そして、油を流すと、かんさうが  
るくなつて、川に住んでいる生き  
物たちが住めなくなつてしまつ  
たことも知つたからです。

▲自分の家のエコ活動の  
まとめ

わたしたちがやってきた  
ことをみんなに伝えよう。



▲「地球を救え！未来環境創造  
戦士エコマンダー」を演じた  
学習発表会

### タバコの手



▲保健所の職員を講師に  
禁煙啓発の授業（大門小）  
（保健所）

鳥川小、大雨河小、千万町小の3校で  
行う合同学習。中学年は、学校周辺の川  
の調査を協力して行っている。



▲市職員を講師に川の生き物調査（大雨河小）  
（自然共生課）

### 川の調査

川の調査をしてみて、いろ  
んな生き物があるんだなあ  
と思いました。川を大切にし  
ないと生き物は死んでしま  
うので、わたしたちが今でき  
ることをして、川をもっときれ  
いにしていきたいです。  
（大雨河小 四年）

### ゴミの減量



▶エコマンダーレドドと  
環境教室（岩津小）  
（ごみ対策課）

岡崎市では、一年間に、  
名古屋ドーム一八〇杯分  
ものゴミが集まると聞いて  
、わたしはとても驚き  
ました。  
また、わたしはこれまで、  
リサイクルのことは知っ  
ていましたが、リデュ  
ース、リユースのことは知  
りませんでした。今日学  
習したことをこれからの  
生活に生かし、たとえば、  
食べ物の缶を鉛筆立てと  
して利用するなど、エコ  
を続けていきたいと思  
います。  
そして、物を大切に  
して、必要のないものは買  
わないようにしたいと思  
います。  
（岩津小 四年）



環境教室をきっかけに、環境に  
ついて考える子供になつてほしい  
と願っています。  
もっといろいろな学校に呼んで  
もらいたいですね。  
（環境総務課 神谷雅範主事）

※市職員出前講座の申込書は、市民センターなど市の施設にあ  
ります。また、市のホームページからも見ることが出来ます。



# お知らせ



## ●教育最新情報

○平成十九年度全国学力・学習状況調査結果からみた岡崎市児童生徒の様子のご概要

※詳細はOKリンクに掲載。

1 調査分析概要（全国の平均正答率と比較して）

主として「知識」に関する問題

（小学校六年生）

国語…できています。

算数…たいへんよくできています。

（中学校三年生）

国語…たいへんよくできています。

数学…たいへんよくできています。

主として「活用」に関する問題

（小学校六年生）

国語…たいへんよくできています。

算数…たいへんよくできています。

（中学校三年生）

国語…たいへんよくできています。

数学…たいへんよくできています。

## 学習状況

「生活習慣が確立している児童・生徒ほど、今回の調査で高い正答率を得ている傾向にある」という全国の調査結果とはほぼ同様であった。具体的には、「朝食を毎日食べる」「登校前に持ち物の確認をする」「家の人と学校の出来事について話す」「毎日同じく寝る」「寝る前に読書をする」「読書好きである」「きまり・規則を守る」「学校で友達に会うのは楽しい」「ニュースなど世の中の出来事に関心がある」「人の役に立つ人になりたい」等である。

全国の調査結果で、「就学援助を受けている児童の割合が高い学校の方が平均正答率が低い傾向が見られる」と分析されているが、本市ではその傾向に当てはまらない。

2 今後の岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

(1)国語や算数・数学における基礎基本となる知識の力を一層伸ばしていくために、朝の帯時間や授業の充実、また、補充学習等で活用できる基礎学力向上教材を改訂し、その内容充実を努める。

(2)国語や算数・数学における活用の力を一層伸ばしていくために、今回の調査の詳細な分析をし、授業改善案のための指導案例集を作成して活用できるようにする。

(3)家庭・地域と連携をとりながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていく。

## 3 留意点

(1)この調査で測定した学力は特定の一部分です。  
(2)学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努めます。  
(3)家庭では、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲を持って取り組む励ましや環境づくりをお願いします。

## ●少年自然の家だより

### ○開所三十周年記念式典

十月十六日（火）、「少年自然の家開所三十周年記念式典」が行われた。

この施設は、市内の児童・生徒が豊かな自然の中でのびのびと活動し、人間性豊かな青少年を育成することを目的に、昭和五十二年五月に開所された。以来、三十年間で百万人を超える児童・生徒が利用し、多くの成果を残して現在に至っている。

この日の式典には、柴田敏一市長をはじめ、各学校の校長先生やたくさんのお賓の方々が参加した。また、山の学習で訪れていた奥殿小学校・細川小学校の児童にも参加してもらった。児童を代表して、奥殿小学校の柴田好美さんが「テントやロッジで過ごすことができるのでとても楽しみ。落ち葉スキーやキャンプファイヤーなど、私たちがわくわくさせてくれる自然が大好き。これからもずっと素敵な場所であってほしい」と、元気な

声でお祝いの言葉を述べた。式典の後に、交流もあつきました。大会を実施した。「ヨイショ！ヨイショ！」の力強い掛け声とともに、楽しい雰囲気会場いっぱいになり、つきたてのおもちを参加者全員でおいしく味わった。



### ○チャレンジデイキャンプ

十月二十日（土）、市内の不登校対策委員と野外活動委員が連携して、不登校の小中学生を対象に「チャレンジデイキャンプ」を実施した。

このキャンプに不登校や登校しても教室に入れない児童・生徒二十四名が参加した。野外で落ち葉スキー、アスレチック、カヌー、鮎つかみに挑戦するなど、晴天の下、秋の一日を満喫した。

●岡崎市教育委員

委員長 寺部 暁  
 同職務代理者 畔柳美奈子  
 委員 平野 有行  
 委員 大原 憲一  
 教育長 江村 力

●表彰

◆第二十二回「We Love トンボ」  
 絵画コンクール

文部科学大臣賞

井田小一年 稲吉 燿  
 美合小四年 原田野乃花

環境大臣賞

広幡小二年 柴田 篤志  
 銅賞 広幡小二年 鈴木 夏実  
 学校賞

環境大臣賞 広幡小  
 朝日小学生新聞社賞 広幡小

◆第十三回数学検定(団体の部)  
 文部科学大臣賞 矢作北中学校

◆ASIA GRAPH 2007  
 こどもCGコンテスト

入選 竜海中三年 長井 尚哉  
 入選 竜海中三年 山出 紫布

◆第三十一回毎日全国学生書写書道展  
 毎日新聞社賞

六ッ美北小六年 村越彩香  
 ◆平成十九年度フラーワープロ・  
 コンクール 秋花壇の部

県大賞(最優秀) 上地小学校  
 ◆第五十回中部日本吹奏楽コン

クール本大会  
 優勝グループ(金賞)

竜海中学校  
 準優勝グループ(銀賞)  
 岩津中学校

◆第五十一回愛知県統計グラフ  
 コンクール

特：全国特選 ①：全国入選  
 ②：全国佳作

●小学校一・二年の部 金賞  
 矢作東小二年 今橋 信介

●小学校三・四年の部 金賞  
 矢作東小三年 栗山 伸樹

●三島小三年 茨木 香名  
 同 田中 杏佳

●三島小四年 中村 まみ  
 同 寺味 克美

●竜谷小四年 野村 高吾  
 同 砂塚 大輝

●竜美丘小四年 大久保 杏  
 ●小学校五・六年の部 金賞

●三島小六年 松井 優佳  
 ●三島小五年 米沢 優輝

●竜美丘小五年 小山内優奈  
 ●連尺小五年 桐戸 佑香

●竜美丘小五年 長嶋 遥菜  
 ●中学生の部 金賞

●美川中三年 鈴木香原里  
 ●竜海中三年 鈴木美葉子

●竜海中三年 大久保 愛  
 ●竜海中三年 吉田佳穂樹

●矢作中二年 加藤 優  
 ●パソコンの部 金賞

●河合中三年 中野 真歩

⑧河合中三年 酒部 亜矢  
 ⑨矢作中二年 田中 有沙

⑩矢作中二年 北野 浩美  
 同 米田 優

同 北中一年 辻村 慎志  
 同 宗仲 航汰

同 早川みゆき  
 同 井田小六年 岩尾 潤

幸前記以外にも銀賞二十二点、  
 銅賞二十一点を県で受賞。

◆高円宮杯第五十九回全日本中学  
 校英語弁論大会・愛知県大会

最優秀賞(全国中央大会出場)  
 竜海中学校 森川 莉子

◆愛知県警察本部長・愛知県文  
 通安全協会長連名表彰

交通安全優良校 山中小学校  
 ◆第四十二回CBC子ども音楽コ

ンクール ※は中部連勝大会出場校  
 音楽合奏の部

優秀賞 竜美丘小※  
 優秀賞 矢作南小

重奏の部 弦楽十重奏  
 優秀賞 城北中※

同 弦楽七重奏  
 優秀賞 城北中

合奏第一の部  
 合唱の部

優秀賞 城北中※  
 優秀賞 根石小※

優秀賞 矢作東小※  
 優秀賞 矢作南小※

優秀賞 矢作北中※  
 優秀賞 竜南中※

優秀賞 三島小

◆第五十七回西三河中学校駅伝  
 競走大会

男子の部 第二位 矢作中  
 第三位 美川中

第六位 六ッ美北中  
 第七位 竜海中

第八位 北中  
 第九位 甲山中

優 勝 竜海中  
 第五位 岩津中

第六位 六ッ美中  
 第八位 城北中

第十位 六ッ美北中  
 ※以上県大会に出場

◆第三十四回岡崎市小中学生  
 文コンクール

最優秀賞 本宿小六年 北河 梨沙  
 優秀賞 竜海中三年 吉澤美奈美

◆第四回徳川家康公作文コンクール  
 最優秀賞 緑丘小四年 尾崎 晴香

優秀賞 根石小一年 山田 直輝  
 美合小六年 植村 恵実

附属中二年 石黒 来実

第46回岡崎市小学校陸上競技大会

個人種目1位のみ 会場：県営岡崎総合運動場

男子	氏名	校名	記録	女子	氏名	校名	記録
5年100m	木村 颯	男 川	14'3	5年100m	吉賀 美月	大 門	14'6
6年100m	友澤 昂士	六美西	13'8	6年100m	浅田えりか	美 合	14'1
80mH	磯谷 渡	福 岡	12'3	80mH	祖父江珠実	大樹寺	13'6
1000m	西山 令	井 田	2'57'0	1000m	田中 美希	緑 丘	3'19'9
400mR	中根・友澤	六美西	53'2	400mR	溝口・宮本	矢作東	57'2
	山田・吉田				富安・杉山		
	1位				2位		
	六美西	福 岡	男 川		矢作東	本 宿	常磐南
走り幅跳び	松尾 成	緑 丘	4m99	走り幅跳び	三浦 和	矢作北	4m12
走り高跳び	安田 成榮	山 中	1m43	走り高跳び	高合里沙子	六 名	1m38
7714-4部	五輪 具路	広 幡	72m42	7714-4部	長坂 奈南	生 平	56m23
総 合	1位	2位	3位	総 合	1位	2位	3位
	六美西	福 岡	男 川		美 合	六 名	矢作東

・カ  
ッ  
ト  
楽  
梨  
小  
深  
谷  
友  
一

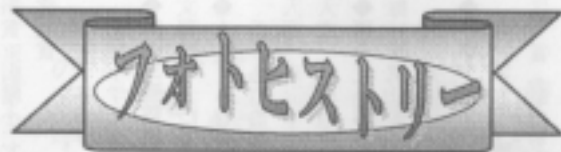
## 薄着・裸運動 (昭和47年)

写真提供：豊富小学校

昭和四十四年から連続して四年間、集団風邪による学校閉鎖が続いた。子供たちの日常生活習慣や体力に問題があるのではないかと考えられた。放課時にも厚着でじっとしては、抵抗力も体力もつかない。そこで、健康な体をつくりあげようと薄着・裸運動と乾布摩擦を始めた。

「弱くて役に立たない子供を育てなければ厚着をさせなさい。健康で役立つ子供に育てなければ薄着がいい。いやショートパンツの裸がいい」という当時の校医さんの協力を得て、冬場の欠席が次第に減少していった。

全市的にも体力づくりや健康教育の重要性が叫ばれていた時期でもあり、各校で、子供たちの体力向上をめざした、様々な取組が行われていた。



## 岡崎の教育



- \* 子どもの脳が危ない 福島 章  
PHP研究所 ¥660
- \* 佐藤一斎一日一言 渡邊五郎三郎  
致知出版社 ¥1,200
- \* とてつもない日本 麻生太郎  
新潮社 ¥680
- \* 仕事と年齢にとらわれない  
イギリスの豊かな常識 井形慶子  
大和書房 ¥1,500
- \* なぜ生きる 高森顕徹  
一万年堂出版 ¥1,575

自殺の増加と低年齢化に世の中戸惑っている。苦しくとも生きねばならぬ理由は何か。どのように生きるのかを教えることは、教師にとって大きな課題である。

「生きること=良いこと」という考え方を大原則として「よくぞ人間に生まれたものぞ」と、生きていることの歓喜を得られる生き方、充実を得られる生き方を努力して求めることが大切であるとしている。何が歓喜に値するか示唆が得られる。

親子連れのお客が店内に入ってきた。親と離れ、子供は夢中になって自分の欲しい物を探していた。そんなとき、他の客とぶつかってしまった。昨今、他人にぶつかっても、平気で過ぎていく人間が多い。この子供が即座に発した「ごめんなさい」のひと言が心地よかった。

## シ オ ス ア

「霜焼けの手をかくしけり袖の中」  
(虚子) 霜焼けの子をあまり見なくなつたのは、栄養事情がよくなったからか、環境の変化からだろうか。冬の到来の中で、ハボタンは霜を待ってましたかのように、明るく色染めしている。変わらない花たちの、冬の装いである。

新しい内容を毎年検討している市職員出前講座。昨年度は、小学校が八十四回、中学校が三十二回利用している。

専門的な知識や技術は、子供たちの学習に役立つだけでなく、わたしたち教員の力量向上にもつながるものである。更なる活用を図りたい。

ずっしりと家計に重くのしかかる日用品の値上げは、思わぬところで学校生活にも影響を与えていた。「値上げのせいで、給食の献立作りや食材選びが本当に大変」と嘆かれる学校栄養士のAさん。限られた予算の中で献立を立て、調理して下さった給食。文句を言うまい。残すまい。